
レッゴーきちがいくん・2nd Punish

自殺肢体

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

レッゴーきちがいくん・2nd Punish

【Nコード】

N1090E

【作者名】

自殺肢体

【あらすじ】

良い気違い・高坂幸男の、悪い気違いとの大立ち回りとくどくど
覧あれ！

私だ。こっぴやかしちお 高坂幸男だ。

知らないならそれで別にかまわない。でもやっぱ許さん！

そんなことはどうでもいい。今日も悪い気違いを爆殺してやろう
と思いつつ、街をニヤニヤしながら時速2・85kmで歩行中だ！

「キヤー助けて！」

悲鳴だ！ 若い女性の悲鳴だ！ なんと、なんのヒネリもない
悲鳴なんだ！ でも美声だ！ いいぞ！ 絶対美人だ！ 100
パー美人だ！ 助けよう！

でも今は無理だ。所持金が1051円しかないから無理だ。女性
を助けても、ラブホテルに連れ込む金がないから無理だ！ 残念だ
！ でもやっぱ助けよう！

ダッシュで美声女性のところまで行くと、そこではなんと！ 特
殊警棒を持った男が女性に絡んでいるぞ！

「へっへっへ、どうだい？ この黒光りする重さ429グラムの特
殊警棒は？ グリップの直径なんて、26mmもあるんだぜ！」

「ひい……なんて重さなの！ 429グラムだなんて！」

男が、通販で買った感じの特殊警棒を女性に自慢している！

なんてひどいヤツだ！ かawaii女性に武器の自慢をするなんて！ 目も当てられない惨状だ！ この世には神も仏もないのか！ もうちょっと見てみよう！

「へっへっへ、普段は20.5cmで、伸ばせば53.5cmにもなるんだぜ！ 女性を暴漢から守るのにすごくいい武器なんだぜ！ へへへ！」

「ああ……しかもカーボンスチール製で、値段は8000円なんですって？！ こんなのでどつかれたら私……即死しちゃう！ 怖い！」

いけない！ このままでは女性が（精神的に）危ない！ どうすればいいんだ！ ちよつと助けてみよう。

「やめろ！」

「誰だお前は！？」

「高坂幸男だ！」

「なんだとあの高坂幸男だと？！」

「知ってるのか！ オレはそんなに有名か！」

「知るか！ 帰れ！」

「いやだ！」

「なんでだ！」

「高坂幸男だからだ！」

「くそう、なんてヤツだ！ 怖い！」

「うるさい！ さつさと帰れ！ それと5000円よこせ！」

「なんでだ！ ホテル代か！」

「なぜわかった！ 早くよこせ！」

「黙れクソ！ こうなったら！」

男は自分がいままで女性に自慢していた特殊警棒に、ナイフを突き付けた！

「これで手も足もでまい！」

なんとという悪虐非道な男だ！ 自らの特殊警棒を人質にとるなんて！ このままでは特殊警棒が傷ものにされてしまう！ なんの罪もないスチールカーボン製の特殊警棒が……！

「卑怯だぞ！ 帰れ！」

「うるさい！ お前が帰れ！ 特殊警棒がどうなってもいいのか！」

「キヤーやめて！」

女性も特殊警棒が心配でならないようだ！

くそ、どうすればいい……？ さつさと帰ってドラゴンボールの

再放送を観るべきなのか……？ どうすれば……！

「そうだ！」

こんな時こそ、かねてより隠し持っていたショットガンで！

「手を上げる！ 撃つぞ！」

「ギャアやめて！ 撃たないで！」

「命乞いをしろ！ 特殊警棒を放せ！」

「すごい！ 大逆転ね！」

女性の顔に笑みが戻ったようだぞ！ やったーホテル行きだ！

しかし、さすがはショットガンだ！ 武器が導いた平和だ！ 殺そう！

「助けて！」

「いやだ！」

「それでもマジで助けて！」

「なぜだ！」

「お腹が痛い！ あと2分39秒でウンコが漏れる！」

「それじゃあ仕方がないな……」

「そんな重大な用事があるのなら、しょうがないわよね！」

「勝手に喋んな！ さっさと帰れ！」

「ありがとう！ さようなら！ バーカ！」

武器自慢魔はダッシュで施設に帰っていった。すごく速い！ オリンピックに出ればいいのに！

「ありがとう、助かりました」

美声女性がお礼を。

あれ？ この娘、よく見ると涼宮ハルヒに似てるぞ！ カワイイ！ 好みだ！ よかった！ 付き合いたい！ でも結婚はまだ早いかな……。ハルヒの両親がどう言つか解らんしな！

うん、あとはどう、ホテルに誘うかだが……。どうしよう？ 正直にすべてを打ち明けるべきだろうか？ 俺が良い気違いであること、所持金が千円程度しかないこと、どちらかと言えば鶴屋さんのほうが好きだということを……。

「別に構いませんよ、私、読心術者だし、変な人同士、気が合いますよ！ マジで！」

「なんだって！？ 唐突だな！ デウス・エクス・マキナだな！」

そして俺は、『とりあえず結婚しよう』と心の中で思った。

「……はい」

と、彼女は頬を染めつつ頷いた。……ハルヒっぽくねえ！ でも

いいぞ！ 99パー美少女と言える外見なんだし、超オツケーっすよ！ 気違いでよかった！

いわゆるハッピーエンドってヤツだな！ ていうかもう、グダグダだな！

思いついたまま推敲もせず書くところなんですので気を付けて！

終了。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1090e/>

レッゴーきちがいくん・2nd Punish

2011年1月16日03時23分発行